

「パントマイム」を学校へ

一般社団法人 日本パントマイム協会

2024.3.5
代表理事：江ノ上陽一

STEAM教育で注目される、自由な発想力や想像力、自分の考えを具体化し、表現して伝える力、新しいものを生み出す創造力など、さまざまな「力」を養う総合学習として、パントマイムが学校教育の現場で活用されています。

企画趣旨

パントマイムアーティストを講師として学校に派遣し、パントマイムの表現方法を用いたワークショップを生徒に体験してもらいながら、グループ単位での創作や発表などを行います。児童・生徒と協調・協働しながら「正解のない課題」解決に取り組みます。

この事業を体験することで、児童・生徒が自分の感情や思いを表現したり、コミュニケーションに関する能力や感性を育んだり、豊かな情操を養うことを目指します。

「表現」として体育の授業や美術の授業に組み込むなど、学校ごとの課題やテーマに合わせたアレンジが可能です。



パントマイムの特性とは

パントマイムは言語の無い芸術表現です。鑑賞や、実演を通じて、さまざまな「力」を総合的に養うことができます。

- 緊張と弛緩という身体の基本的な動きや感覚を通して、自身の体について知ることができる（観察力、身体力）。
- 道具やセリフの制約なく自由なストーリーを思い描き、音楽に合わせてのびのびと動く（創造力、表現力）。
- どう表現するか、何が必要で何が不要か、さまざまな工夫ができる（思考力、判断力）
- 時間や空間の制約（音楽等）のなかで完成までまとめあげる（課題解決力、プレゼンテーション能力）。
- ほかのひとの演技を見る際も、想像を膨らませ、積極的／能動的に関わることが求められる（観察力、想像力、相手の気持ちや立場を考える力）。
- グループでの共演や相互評価（協調性）。
- 作品を完成させる達成感（自己肯定）。

パントマイムワークショップでコミュニケーション能力を育む

1. 「自分流にやってみただけでそれでは伝わらない」という体験を大切にします。
コミュニケーション能力を育むための第一歩として、自分とは異なる他者の認識と理解の第一歩です。
2. 他者認識を通じて自己の表現を行う契機となります。
3. 表現の仕方はそれぞれ人と違ってよく、正解はありません。自分の演技を完成させ披露することで、一人一人が成功体験を得るように導きます。
4. グループワークでの表現では、一緒に創作する仲間との意思疎通が必要です。もちろん言葉を交わして話し合いも必要ですし、タイミングを揃えたり、アイコンタクトをしたり、様々なコミュニケーションの手段があります。

コミュニケーション能力向上事業指針（文部科学省「コミュニケーション教育推進会議」より抜粋）

コミュニケーション能力の捉え方とその育成

コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景を持つ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。

コミュニケーション能力を学校教育において育むためには

1. 自分とは異なる他者を認識し、理解すること
2. 他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること
3. 集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと
4. 対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある

ワークショップ内容

パントマイムワークショップを事業に取り入れた場合の内容です（授業回数3回／小学校を想定していますが、中学校、特殊支援学校等でも基本的な流れは同じです）。講師1名＋補助者1名で1クラスを担当。一般社団法人日本パントマイム協会に所属するプロのパントマイムアーティストが、連続して訪問予定です。

	内容
第一回	<ol style="list-style-type: none">1) 鑑賞（10分程度の短編作品）：パフォーマンスを観てパントマイムの不思議さと驚きを体験する。2) 身体の緊張と弛緩：「物」に触るときに身体が緊張し、逆に「物」を離す（離れる）ときには弛緩（緩む）する。この組み合わせで「身体の動き」が出来上がっていることを知る。3) 「テーマ」にそって演じる。例えば、「石ころにつまずいて転びそうになる」そして「その石ころをあなたはどうしますか？」という問いに、生徒は一人一人様々な「答え」を想像し、試し、演じることで「身体の自由」を体感する。4)まとめと次回への課題
第二回	<ol style="list-style-type: none">1)前回の振り返り2)「ストーリー」を作る。実際に演技してみる。伝えるために何が必要で、何が不要なのか、グループで話しながら組み立てていく。3)繰り返し練習し、精度を上げていく。講師のアドバイスのもと、「相手からどう見えるか」の視点を獲得する。4)まとめと次回への課題
第三回	<ol style="list-style-type: none">1)前回の振り返り2)音楽に合わせて最終練習3)グループごとに発表／演じた感想、観た感想の共有4)まとめ、フィードバック

会場：体育館、視聴覚室等身体を十分に動かせる広いスペースが望ましい（相談可）

企画コーディネートについて

一般社団法人日本パントマイム協会

一般社団法人日本パントマイム協会は、日本におけるパントマイムの振興と発展、また、パントマイムに関わるアーティストの交流とサポートを目的とする団体です。

パントマイムを通じてもっと多くの人と出会うために、パントマイム界全体が協力しあって2018年に設立した協会です。 <https://www.japanpantomime.com>

江ノ上陽一（コーディネーター／講師／一般社団法人日本パントマイム協会代表理事）

スーパーパントマイムシアターSOUKI主宰。85年ヨネヤマママコに師事。ママコ・ザ・マイムのメンバーとして活動を開始する。90年「SOUKI（想起）」設立。94年に古典芸能の重鎮、郡司正勝と出会い指導を仰ぎ影響を受ける。現在パントマイムの作・演出・振付を専門に行っている数少ないクリエイターであり、前代未聞の歌舞伎とのコラボレーション作品など独自の活動を展開している。海外でもポーランド等の招聘公演を成功させ、17年パントマイム版「ゴドーを待ちながら」を発表し好評を得た。

これまで幼稚園生から小、中、大学、専門学校生、まで幅広くパントマイムを教えており、定期的なレッスンクラスでの視覚障害、聴覚障害、発達障害を持つ生徒への豊富な指導経験を軸に、特殊支援学校の生徒向けのワークショップも数多の実績をもつ。現在、オープンクラスに在籍する視覚に障害のあるパフォーマーが、舞台やイベント出演で活躍している。

桐朋芸術短期大学演劇専攻、東京ダンスアンドアクターズ専門学校等で講師を勤める日本では数少ない「パントマイム教育者」。

スーパーパントマイムシアターSOUKIでは、小学校、中学校、高校等で、年間10-20回程の芸術鑑賞公演やワークショップを行っている。

令和4年度「文化芸術による子供育成推進事業 ユニバーサル公演事業」に採択され全国13校で実施（令和6年も採択）。

【令和5年度の鑑賞公演実績】

和歌山県立海南高等学校 芸術鑑賞公演（6月）
東海村立東村山第二中学校 ワークショップ（7月）
東海村立村松小学校 芸術鑑賞公演（8月）
大阪市立我孫子中学校 芸術鑑賞公演（9月）
平塚市立神田中学校 芸術鑑賞公演（10月）
東海村立石神小学校 芸術鑑賞公演（12月） 他

【特別支援学校等での公演、ワークショップ実績】

戸塚社会福祉施設（2018年）
筑波大附属大塚支援学校（2021年）
静岡県立静岡聴覚特別支援学校（2023年）
長崎県立川棚特別支援学校（2023年）

※「文化芸術による子供育成推進事業」等へのご応募をされる場合には、公式サイトをご確認の上、ご相談ください。

<https://www.kodomogeijutsu.go.jp/index.html>

問い合わせ

一般社団法人 日本パントマイム協会

〒111-0042 東京都台東区寿2-5-12加瀬ビル4F Tel : 03-3845-9433

コーディネーター担当 江ノ上陽一 Mail : japan.pantomime.association@gmail.com

企画制作部 三五さやか Mail : ticket.jpa@gmail.com Tel : 080-3386-8548